

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：鋳工業生産指数(2006年1月)

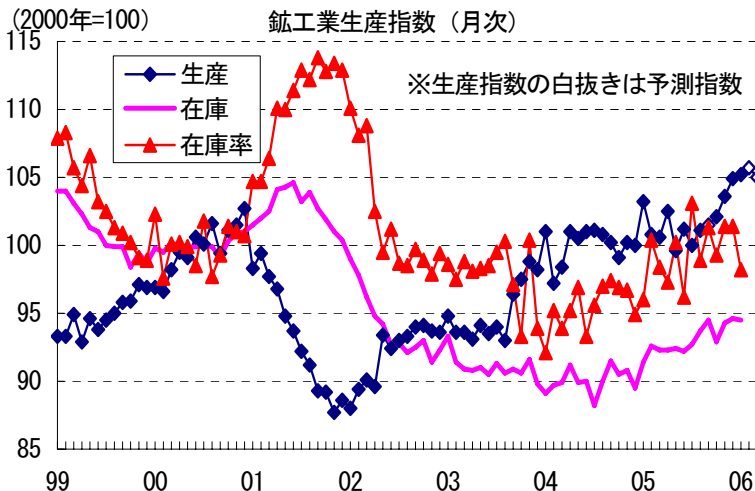
発表日：2006年2月28日(火)

～1-3月期も堅調～

(No. J - 239)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)



	生産 前月比%	出荷 前月比%	在庫 前月比%	在庫率 前月比%
05年1月	3.2	2.3	2.1	1.2
2月	▲2.3	▲2.9	1.3	4.6
3月	▲0.2	0.7	▲0.3	▲2.0
4月	1.9	2.7	0.0	▲1.1
5月	▲2.8	▲3.0	0.1	3.0
6月	1.6	2.3	▲0.2	▲4.0
7月	▲1.2	▲1.5	0.5	7.2
8月	1.1	2.2	1.1	▲4.1
9月	0.4	▲0.8	0.9	2.4
10月	0.6	1.9	▲1.7	▲2.0
11月	1.5	0.6	1.5	2.1
12月	1.3	1.1	0.3	0.0
06年1月	0.3	0.2	▲0.1	▲3.2
2月	0.5	←予測指数		
3月	▲0.7	(出所：鋳工業指数、経産省)		

○ 良好な内容

1月の鋳工業生産指数は前月比+0.3%となった。ほぼ市場コンセンサス(+0.4%、レンジ▲1.0%～+1.7%)通りであり、意外感のない結果だ。これで鋳工業生産は6ヶ月連続での上昇となり、生産が増加傾向にあることが改めて確認できた。6ヶ月連続での増加は、1996年4月～1997年3月にかけての12ヶ月連続増加以来のことである。在庫、在庫率も揃って低下するなど、内容的にも悪くない。後述する通り先行き見通しも良好で、全体的に底堅い結果だったといえるだろう。

○ 非ITの在庫調整も徐々に進捗

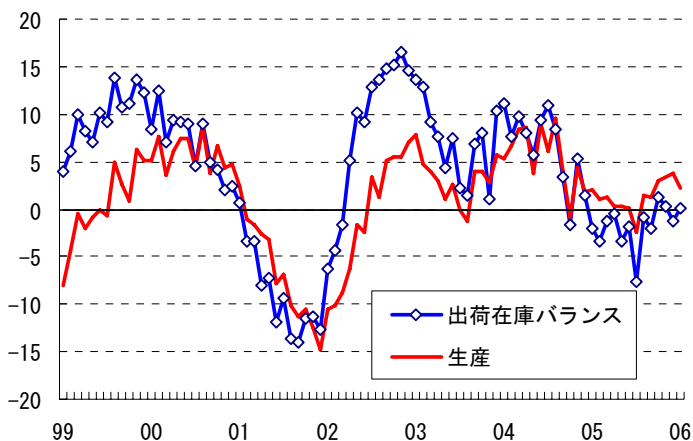
在庫調整の動向を確認してみよう。出荷在庫バランスは+0.1%と前月(▲1.3%)から持ち直し、在庫循環図上では再び45度線を横切る形になっている。なお、このところ輸出の船待ち要因等で乗用車在庫の振れが大きくなっていることから、基調を見るには乗用車を除いて見た方がよい。そこで、出荷在庫バランス(除く乗用車)を計算すると+1.3%となっており、前月(+1.9%)からは低下したものの、引き続きプラス圏にあることが分かる。また、在庫調整の進捗が遅れている非ITについても、出荷在庫バランス(除く乗用車)は2005年7月の▲7.1%をボトムとして足元では▲0.8%にまで改善している。改善ペースはかなり緩やかだが、非ITの在庫調整も徐々に進んでいるといえるだろう。減産が続いている素材業種についても、僅かながら改善の兆しが見え始めている。業種によって動きはまちまちであり先行きの動向はなかなか読みにくい、少なくとも今後、生産を大きく抑制し、再び在庫調整局面入りさせるような材料は見当たらなくなってきた。

先日公表された1月の貿易統計でも確認できたように、海外経済の堅調な推移を背景に輸出は好調さを維持しており、今後も生産の押し上げ材料になるだろう。加えて国内最終需要も堅調なことも踏まえると、少なくとも今年前半までに関しては生産の好調な動きが続くと見込まれる。

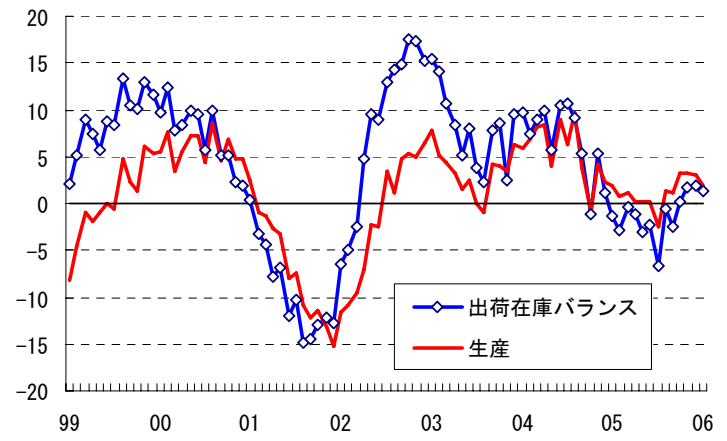
○ 1-3月期も前期比プラスに

最大の注目だった予測指数は、2月が前月比+0.5%、3月が同▲0.7%となった。予測指数通りに推移すると仮定すれば、1-3月期は前期比+1.7%になる。問題はこの数字の実現性だが、1-3月期に関してはさほど問題はなさそうだ。昨年秋以降、実現率は大幅にマイナスとなる傾向が続いていたが、1月の実現率のマイナス幅は▲1.0%と前月の▲2.3%からは縮小した。また、2、3月についても、通信機械関連での新製品発売に伴う生産増が予想されている情報通信機械を除けば、比較的控えめで無理のない計画となっており、予想から大きく下振れる可能性は小さいだろう。1-3月期の出来上がりとして、前期比+1%程度の伸びは見込んでおいて良いと思われる。10-12月期の+2.6%という高い伸びの後としてはかなり堅調といえるだろう。1-3月は、10-12月期の大幅増加の反動から伸びをやや鈍化させつつも底堅い動き、といった景気イメージになりそうだ。

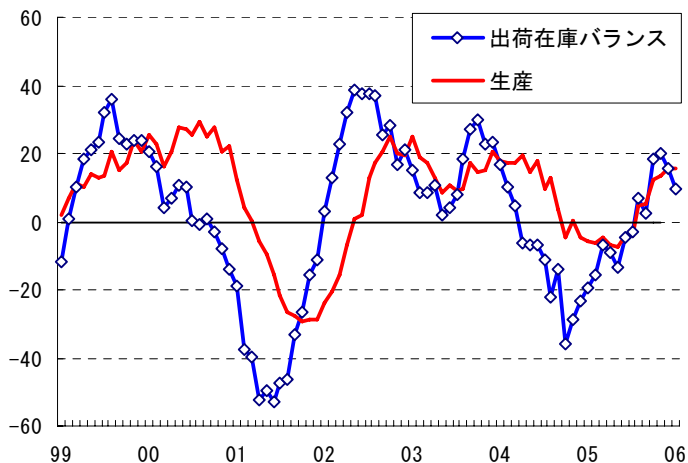
(%) 出荷在庫バランスと生産前年比 (鉱工業全体)



(%) 出荷在庫バランスと生産前年比 (除く乗用車)



(%) 出荷在庫バランスと生産前年比 (IT関連財)



(%) 出荷在庫バランスと生産前年比
非IT関連財 (除く乗用車)

